

平成28年度 学校関係者評価

【定 時 制】

1 本年度の重点目標

- ・ 基本的生活習慣の定着（身だしなみ、遅刻・欠席、授業規律など）
- ・ 基礎学力の育成（授業改善、補習・講習、学び直しなど）
- ・ 学校行事や生徒会活動、部活動の活性化（生徒の居場所づくり）
- ・ キャリア教育の充実
- ・ 特別支援教育を必要とする生徒への対応

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
運営組織	進路指導部が積極的なキャリア教育を進め、大きな進路実績に繋がった。他の分掌も業務の精選や分担の見直しを図ったことにより昨年よりも効率的に業務を進めることができた。	それぞれの役割の中で、着実に前進していることが重要で、教職員はよく頑張っていると思う。
改善方策	次年度より、従来の4分掌を教務部、生徒指導部、進路指導部の3分掌に編成し、業務の効率化と分担の明確化および担任の負担軽減を図る。各分掌の連携と相互理解が望まれる。	
学習指導	発達障がいを持つ生徒もおり、生徒の学力差が大きいため、個別指導の必要性を認識した。「学び直し」、基礎学力の向上を目指した授業改善が求められる。また、検定取得に向けた取組が進み、学習意欲をもった生徒が増加している。	授業に望む姿勢は年々向上しており、学年が上がるにつれ、その傾向は強い。先生方の熱意と努力を感じる。
改善方策	平成29年度より学校設定科目「ベーシックスタディ」（1、2年生）、「教養・自然科学」（3、4年生選択）を導入し、基礎学力の向上を図り、進路実現に結びつけていく。また、学生ボランティア、学校サポーターの協力を得て、学習を通して人間的な成長にも繋げていきたい。平成30年度からは三修制の導入により生徒の意識を高めたい。	
生徒指導	特別支援教育支援員が配置され、きめ細やかサポートができつつあるが、更に組織的な支援体制の確立が必要である。 生徒指導部と各HR担任の指導により、多くの生徒に規範意識が高まっている。	特別支援教育支援員の配置は学校に良い結果をもたらしていおり、支援員は特別支援の発想と指導力を発揮している。
改善方策	生徒指導部と支援員を核とした生徒サポート委員会を活性化させ、様々な外部機関やスクールカウンセラー、パートナーティーチャーと効果的な連携を図り、多様な生徒の支援体制の構築を目指す。	
進路指導	外部団体と連携したキャリア教育を一層推進することができた。 特に、サポステ員が講師を務める職業スキルアップセミナーは、講師の専門性を生かした構成で、生徒の自主性を高めつつ、キャリア教育を実践できた。	今年度の定時制の進路実績は素晴らしい。先生たちの頑張りに感謝すると同時に、より一層、生徒や保護者のニーズに添えていってほしい。
改善方策	インターンシップや上級学校の体験入学への参加など、生徒が実際の体験を通して将来の勤労観や職業観を育てるキャリア教育を一層推進していく。また、進学を目指す生徒への効果的な学習指導のあり方も検討していく。	
特別活動	部活動指導の効果が、日常の学校生活に良い影響を与えている。部活動の加入率を高める方策が必要である。 生活体験発表全国大会に出場した生徒がおり、全体に希望を与えることができた。 学校行事も活発であり、生徒の自主自律の姿勢が大きく成長した。	経済的な理由や就業率が高くなっていることが、部活動生徒数の減少の一因であろう。 生活体験発表全国大会に出場は素晴らしいことである。盛んな学校行事の運営も生徒の成長が大きく関与している。 先生たちの熱意ある指導に感謝したい。
改善方策	生徒会を中心とした学校行事を教職員全体で応援し、更に活発なものにしていく。部活動、生活体験発表大会参加などもより一層促進していけるように検討していく。	
公表方法	学校ホームページ	

